

広報 分水嶺



平成26年の干支は
【甲午(きのうま・こうご)】

第48号

平成26年 1月

岩手北部森林管理署
岩手県八幡平市荒屋新町41-8
050-3160-5895

〔分水嶺新年号年頭挨拶〕

署長 山田 和夫

新年明けましておめでとうございます。皆様には、ご家族お揃いで健やかにそして希望に満ちた新年を迎えられたこととお慶びを申し上げます。

今年度の岩手北部森林管理署における各業務につきましては、おかげさまで無災害を継続しつつ、二度にわたる大雨被害の影響も克服してほぼ予定どおりに進められており、関係者の皆様並びに職員の皆様のご尽力、ご協力に心より感謝申し上げます。

昨年は後半から木材需要が旺盛に、価格も上向き傾向に転じ、長い間低迷してきた木材市況の面では“ほっと一息”といった感ではないでしょうか(消費税率引き上げ後の反動が心配されるところではあります)。また、温暖化に対する地球号からの警告であるかのように暴風雪、集中豪雨、猛暑、竜巻等々自然の猛威が日本列島各地を襲い「これまで経験したことのない豪雨」という言葉を幾度となく聞くことになりました。

このような状況の中で、岩手北部森林管理署におきましては、一般会計化一年目の戸惑いは多少あったと思いますが、「地域にとって、あって良かったと思われる森林管理署」であるという目標を全員で共有し、地域の声を聴きながら、また、関係者との連携に努めながら森林吸収源対策に資する間伐等の森林整備や木材安定供給、安全・安心な国土づくりのための治山事業、そのために必要な路網整備等の各種事業を着実に推進してきました。

各事業を展開するに当たっては、行政、団体、学校、事業体等からボランティア活動も含めて様々なご支援を頂きましたが、引き続き、地域の皆様と色々な形で連携・協働しながら、地域への貢献、森林・林業再生への貢献に努めて参りたいと考えていますので、皆様方のご支援、ご協力をお願いします。

最後に、労働災害等がなく健康で明るい職場であることとともに、皆様方にとりまして幸多き年となりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

〔冬期における労働安全の確保について〕

次長 葛西 貴仁

12月2日から冬期事業が開始されましたが、当署では、平成25年度「冬期事業労働災害防止対策強化期間」を設定し、労働安全確保対策の一層の強化を図ることとしています。

今年度の「冬期事業労働災害防止対策強化期間」については、局全体で請負事業体における労働災害が多発していることから、昨年度と同様に請負事業体についても計画に基づき実施すべき事項を設け、体の災害防止、特に重大災害に結びつきかねない災害の撲滅を期することとしています。

冬期事業では寒冷や積雪等の悪条件が重なり、作業環境や運転環境が一段と厳しくなることから、より一層実行性のある安全管理体制を確立し、労働安全対策の一層の強化を図っていただくようお願いするとともに、「労働災害は絶対起こさない」という決意で安全で正しい作業の確実な実践をお願いします。

また、東北局管内における交通事故も多発しており、その内、重大災害1件を含む公務災害が2件となっているところ。自身の安全運転はもちろんですが、防衛運転を心がけていただくとともに、岩手県冬の安全運転(いち、にっ、さん)運動、1割のスピードダウン、2倍の車間距離、3分早めの出発を励行し、ゆとりのある運転に努めてください。

毎日の安全作業の積み重ねが冬期事業期間の無災害へとつながりますので、日々の健康管理と合わせ、着実な安全諸活動への取組みをお願いします。

間伐推進現地検討会



現地検討会の様子



オペレーターによるハーベスタの実演

平成25年8月29日(木)馬淵川上流流域森林・林業活性化センターとの共催で、関係者約70名の参加により、二戸市の西岳国有林にて、間伐の推進を図るための現地検討会を開催しました。

今年度のテーマとして「高性能林業機械を活用した作業システム」と「林地傾斜から見た効率的路網の配置」について、実演も交えた説明、意見交換を行いました。

森林共同施業団地現地検討会



現地検討会



意見交換会

平成25年11月19日(火)森林共同施業団地を設定している、二戸市浄法寺町下藤地域と八幡平市田沢地域の2団地において現地検討会を開催しました。協定を締結している浄安森林組合及び八幡平市、林業関係者、民有林所有者も含め約40名が参加しました。路網整備・森林整備の状況についての説明が行われ、意見交換を行いました。

安比環境保全活動

平成25年10月30・31日「あつぴ高原遊々の森」において、安比高原ふるさと倶楽部及び八幡平市との共催による環境保全整備事業を行いました。2日間で約100名のボランティアが集まり、草地景観維持のための灌木・ササ等の刈払い・焼却作業を2日間にかけて行いました。30日には安比高原の貴重な財産である自然環境を次世代につなげていくには何が必要かを話し合い、今後の環境保全について意見交換を行いました。また、31日のボランティア交流会ではエレクトーン演奏により心を癒されました。



【コンテナ苗から考える東北の低コスト造林】

造林経費の低減を図るためコンテナ苗の活用に向けた実証試験に当署では取り組んでいます。今年度は苗の改良や実証試験結果を基に、10月29日二戸市シビックセンターと御山第一国有林において、森林総合研究所東北支所と共催でセミナーを開催しました。

東北森林管理局長をはじめ、各県の林業担当者・苗木生産者ら100名を超える参加者と、苗木の軽量化や低価格化に向けた開発と、今後の技術の普及について意見交換・現地検討会を行いました。

また、参加者によるコンテナ苗の植え付け体験を行い盛会のセミナーとなりました。



パネルディスカッション



現地検討会

【森林学習 (安代・田山・松野・大更小学校)】

森林の環境と自分たちの生活との関わりについて学習することを目的に、市内の各小学校と森林学習に取り組んできました。実験による地滑りや、二酸化炭素の吸収量の調査や、子ども樹木博士・ネイチャーゲームなどを通じて、体験的に森林の樹木や土壌・生物との関わりについて学んでいます。

ふれあいの仕事は、「育自」の如く私たち職員が子ども達を通して学ぶことに意義を感じます。



エネルギーとして(薪割り)



治山ダム見学(「央子」さんも熱心…)



事前学習で興味を高め

【 事業報告 】

総括森林整備官 西市 研

25年度の販売事業について

皆さんのおかげをもちまして、12月12日現在予定数量30千 m³ に対し約98%、収入予定額190百万円に対し約97%となっており、今年度の目標をほぼ達成することが確実となり、改めて感謝申し上げます。

1月に入り、まだ作業が続く箇所もあり、安全対策に万全を期すよう再度お願いします。

今年度は、岩手山カラマツ(5m材・写真左)と御堂マツ(5~7m材・写真右)を生産することができ、カラマツは平均21千円で、アカマツは平均40千円で販売することができました。

26年度は、どんなお宝が眠っていることやら・・・！？



主任森林整備官(土木) 清水野 輝夫

“大雨”に振り回された林道事業

平成 25 年は伊豆大島の土砂災害等、全国的に異常気象による災害が多発した1年でした。当署においても 8 月 9 日豪雨～台風 18 号と、1年のうちに2回も「過去に経験の無い大雨」での災害が発生し、林道施設等に甚大な被害を受けました。

災害調査にあたっては「岩手北部署災害調査協力隊」の隊員の皆様の迅速な作戦展開により、被災状況を早期に把握し、同じく被災した近隣署に先がけ上局へ報告書を提出することが出来ました事に、あらためて感謝申し上げます。

被災箇所は新年度に災害復旧工事を施行することになると思いますが、今後新規に開設する林道についても「災害に強い林道！」作りに努めるとともに、既存の林道の維持管理等を通じて、林道通行の安心安全を確保して行きたいと思いをします。



被害直後



復旧予想



分収造林及び・法人の森林契約の新規募集について

東北森林管理局では、国民参加による森林づくりの促進を図るとともに、国有林野の所在する地域の振興に寄与することを目的に国有林内での分収造林及び法人の森林契約の新規募集を行っています。
森林づくりに関心のある地方自治体・法人・地域団体の方などおりましたら、各森林管理署総務グループまでお問い合わせ下さい。



【今年は午年。早馬のごとく元気な日本に駆け上がりましょう!】

皆さん、新年あけましておめでとうございます。無事新年を迎える事ができました。昨年は政権交代の盛り上がりから始まり、その後のアベノミクス効果により、景気に明るさが見えて来ました。ただし4月には消費税率の引き上げもあり、その後の動向を注視していく必要があります。また、東日本大震災の発生からもうすぐ3年が経過しようとしています。被災地では今も尚再建の途上にある中で、

昨年は東北楽天イーグルスが球団創立9年目にして日本一になり、“被災地の方々”東北に夢と勇気と元気をいただきました。また、2020年のオリンピックが東京に決まったビックニュースもあり、

明るい未来に少しずつ近づいてきていると思いたいものです。

今年は午年の中でも「甲午(きのえうま)」という年です。「甲(きのえ)」という文字は種を取り巻いた殻を描いた象形文字で、(かぶせる)とか(蓋をする)という意味もあります。植物や動物が固い殻におおわれている状態を示し、成長過程で一番最初の段階、すなわち、植物であれば種(たね)、動物なら卵、蛹(さなぎ)の状態、固い殻で身を守っている様子を表しています。さながら、将来の大きな飛躍、成長を見据え、じっくりと力を蓄えるという姿勢も大切かと思えます。表面的な知識や聞きかじりの経験だけでは、このような不透明な時代において成果を上げることは難しいでしょう。物事の原理原則に立ち返り、本質的なものの見方ができるように心掛けたいものです。」

また、馬は人間との付き合いが古い動物で、馬にちなんだことわざ格言も多くあります。

「馬には乗ってみよ、人には添うてみよ」ということわざがあります。何事も経験してみなくては本当のところはわからない、やりもしないで批判したり評価したりするべきではないと言うこと、本質的で確かな知識とともに、実線を大切にする事によって、勢いよく飛躍する礎を築きたいと思えます。」

【午に関することわざ、格言】

- ◆ **生き馬の目を抜く** 〈いきうまのめをぬく〉
すばしっこく人を出し抜き、抜け目がなくて油断できないさまの事のたとえ。
- ◆ **将を射んと浴すれば先ず馬をい射よ** 〈しょうをいんとほっすればまずうまをいよ〉
相手を屈服させる。または意に従わせるようにするためには、まずその人の頼みとしているものから攻め落としていくのが良いという事のたとえ。
- ◆ **麒麟も老いて駑馬に劣る** 〈きりんもおいてはどにおとる〉
どんなに優れた才能を持つ人でも、年を取って衰えると平凡な人にも及ばなくなるという事のたとえ。
- ◆ **人間万事塞翁が馬** 〈にんげんばんじさいおうがうま〉
人生における幸不幸は予測し難いということ。幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるか解らないで安易に喜んだり悲しんだりするべきではないという事のたとえ。



【木の中で年を越す昆虫達】

主任森林整備官(経営) 有本 実

日本で3万種以上、世界では約100万種も確認されている昆虫は、陸上のみならず河川や湖沼・海、果ては洞窟や地下水中にまで、あらゆる環境に適応して生息しています。越冬態も多種多様ですが、ここでは朽木の中で年を越す、あまり注目されないけれども良く観察すると味のある、そんな通好みの昆虫をご紹介します。

まずは当署管内のブナ林に生息する、玄人好みの小粒なクワガタから。

オニクワガタ(①②)は朽ちて柔らかくなったブナの倒木に好んで産卵します。♂でも体長20mm程の小型種ですが、名前の由来となった鬼の角の様な大あごが上方に伸びていて、小さいながらも迫力があります。

マダラクワガタ(③④)はさらに小さい日本最小のクワガタで、体長は僅か5mm程。真っ赤に朽ちて、素手でブロック状に割れる倒木に幼虫が生息します。鎧をまとった様な無骨な容姿、いぶし銀的な造形美を感じますね。

アオハナムグリの幼虫(⑤)は、上記2種よりさらに腐朽が進み泥のようになった朽木に生息します。

カナブン同様、蛹になる時に繭を作ることは飼育してみて初めて知りました(⑥)。

夏にシシウドの花などで普通に見られますが、緑色の金属光沢を帯びたなかなかの美麗種です。

朽木を食べる幼虫は、以下のように簡単に飼育できます。

- ① 朽木を素手や鉋で割って採集した(「材割採集」と言います)幼虫を、割った材と一緒にタッパーなど硬い容器に入れて持ち帰る。
- ② 小さなタッパーに細かく砕いた材を固く詰め込み適度に湿らせ、幼虫を入れてフタを閉める。小さな空気穴を開けるのを忘れずに。
- ③ 押入など温度変化の少ない冷暗所に安置し、春を待つ。

マダラクワガタならフィルムケース程の容積で1匹飼育可能です。好奇心旺盛な方はぜひ、様々な腐朽状態の朽木から謎の幼虫を発掘し、羽化させてみてください。夜中、幼虫がタッパーを齧る……カリッ・カリッ・という音を聞きながら、春の訪れを待ち焦がれるのもオツなものですよ？

●写真で見る幼虫と成虫



① 【オニクワガタ幼虫】



③ 【マダラクワガタ幼虫】



⑤ 【アオハナムグリ幼虫】



② 【オニクワガタ♂成虫】



④ 【マダラクワガタ♂成虫】



⑥ 【アオハナムグリ繭の殻・成虫】